

2012年3月期通期見通し説明会
主な質疑応答

(2012年3月期通期見通し)

Q: 2012年3月期は、上期では赤字だが、下期で黒字転換する見通し。どのように達成するのですか？

A: 上期は、主に震災影響による出荷の減少により、200億円の営業損失となる見通しです。しかし、下期の生産は、残業・休出を含む定常操業に戻り、出荷台数も前年に対して4万5千台増となる計画です。加えて、6月30日に導入する国内向け新型デミオを皮切りに、スカイアクティブテクノロジーを搭載した商品を順次導入する予定です。これら新世代商品導入の台数貢献もあり、下期には営業利益400億円となる見通しです。通期では営業利益200億円、当期利益10億円と全ての利益レベルで黒字となる見通しです。

Q: 現時点の生産状況を教えてください。

A: 2ヶ月前の2011年3月期決算発表の時点では、「国内外の工場の本格稼働は下期より」と申し上げていましたが、国内の工場では、第1四半期の後半から残業・休出を含む定常操業を行っています。今月以降、本格安定生産を継続し、通期では、前年を上回る90万台を生産する計画です。また、4月時点定時操業を行っていました海外の生産拠点もすでに定常操業へ移行しています。

(メキシコ生産事業及びブラジル販売事業について)

Q: なぜ、メキシコ市場を生産拠点として選んだのですか？また、ブラジル市場について教えてください。

A: マツダは中長期施策の枠組みの中でも新興国事業の強化を一つの柱として力を注いでいます。メキシコを生産拠点として選んだのは、メキシコが物流コストの低減やFTA他を活用した関税面の恩恵など、さまざまな領域でメリットがあり、マツダにとって最適であると判断したからです。メキシコではMazda2やMazda3を生産し、主な供給地域は中南米です。

2010年には、中国、米国、日本に次ぐ世界第4位の市場へと発展しているブラジル市場は現在350万台の規模ですが、2016年にはオリンピックも控えており、将来的には500万台規模となる見通しです。マツダが参入していない市場では最大の市場であり、また、500万台の需要のうち70-80%はマツダが得意とするB/Cカーという市場です。

(中長期施策の枠組みアップデート)

Q: 今回、中長期施策の枠組みのアップデートをしましたが、2016年3月期の中長期見通しは変更しませんでした。営業利益1,700億円をどのように達成する予定ですか？

A: 中長期見通しまでの利益成長のドライバーは、

- ① SKYACTIVシリーズによる台数・構成の大幅改善
- ② モノ造り革新の加速によるコスト改善
- ③ つながり革新によるブランド価値向上、販売力強化
- ④ 中国・アセアンなど、新興市場での成長

を見込んでいます。特に、①と②が本格寄与する2012年3月以降、利益の拡大を目指していきます。